

校長室だより



7月

2025(令和7)年7月1日
大阪市立天王寺小学校
校長 藤原 和彦

戦後80年の夏休み

早いもので1学期もあと3週間ほどとなりました。春の遠足から運動会を経て、今ではプール水泳の真っただ中と、季節も随分変わりました。終わりというには少し早いですが、この1学期間、保護者の皆様や地域の皆様には、たくさんのご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。終業式が終わるといよいよ夏休みです。多くの子どもたちが楽しみにしていると思いますが、その前に1学期のまとめをしっかり行って、頑張れたところや2学期に向けての課題を明らかにしてほしいと思います。

さて、その夏休み、昨年は毎日猛暑とオリンピックばかりがニュースで流れていたような気がしましたが、暑さについてはどうやら今年も同じようです。子どもたちには熱中症に気をつけて、元気に過ごしてほしいと思います。また、今年は、オリンピックのような大きなイベントはありませんが、夢洲で行われている大阪・関西万博は、夏休み中も引き続き多くのメディアが取り上げて、まだまだ活気が続くような気がします。万博に限らず、ぜひ、いろいろなところで夏休みを楽しんでほしいと思います。

しかし、そうした話題だけでなく、今年は戦後80年を迎えたことを受けて、先の戦争について様々なメディアでたくさん取り上げられるのではないかと思う。

残念ながら、学校現場では戦争を体験として直接語れる教職員はかなり前からいなくなりました。私が新任の頃は、ベテランの先生が、ご自身が体験した疎開の様子などを子どもたちに聞かせていましたが、学校だけでなく社会全体でも戦争体験を語れる人はずいぶんと少なくなっているようです。また、学校によっては人権教育として、86(ハチロク)登校と言って広島に原子爆弾が落とされた8月6日に自主登校日を設定して、平和集会や平和に関する取り組みをしていました。しかし、そうした学校でも、参加率がだんだん下がってきたことなどを理由に、日程を1学期の課業中に変更するなど、趣旨を大切にしながら現在に合った形で続いていると聞きます。天王寺小学校では、平和についての大掛かりな全校あげの取り組みはしていませんが、児童朝会で戦争についての講話をを行うなど、子どもたちがそれぞれ平和について考えられるきっかけを作っています。

それにしても、どうして戦争は起きるのでしょうか。昔、学級担任をしていた時に、湾岸戦争（クウェートに侵攻したイラク



に対して、アメリカを中心とした多国籍軍が攻撃を加えた戦争)がありました。教室のテレビで開戦を報じるニュースを見ていた時、クラスの子が「先生、何で人は戦争をするんやろう。」とボソッとつぶやいたのです。その時、私は、戦争にいたる理由は説明することができましたが、人がなぜ戦争をするのかという本質的な理由は説明することはできませんでした。それは、今でも同じです。ヨーロッパや中東で戦争をすすめている国の為政者が、どうしてここまで犠牲を払ってでも戦争をしたいのか、理屈は理解できても納得はできないからです。昨日の児童朝会で子どもたちに読み聞かせた、谷川俊太郎さんの絵本の中に、「せんそうするのは おとなと おとな」「じぶんの くにを まもるため / じぶんの こども まもるため」という一文がありますが、自分の国を守るために他国の人を殺してもいいとは谷川さんも思っていないでしょう。

では、戦火から遠く離れた日本の子どもたちは、平和と言えるのでしょうか。確かに、戦争という定義を考えると、平和なのかもしれません。しかし、子どもたち同士の間では、いじめをはじめとして様々な^{いさか}諍いやトラブルが起こっています。直接暴力を振るわなくとも、言葉で誰かを傷つけたり、自分の理屈でわがままを通したりと、平和とは言えないことが多いのではないかでしょうか。

そう考えると、戦争も子どもたちのトラブルも、たった一つのことができれば回避も解決もできるのだろうに、と思ってしまいます。それは、「相手のことを思いやる」気持ちをもつことです。

この夏、あちらこちらで「平和」という言葉が聞かれると思います。世界や自国の平和だけでなく、身の回りの平和にも目を向けると、それが日常の生活の中でものすごくたくさんの積みかさねの上に成り立っていることがわかると思います。そうした思いを私たちが伝え続けていくことが、やがて大きな平和につながっていくのではないかなど考えました。

チラシ減ります

これまで学校を通じて配付していたイベントなどのチラシの多くが、大阪市のホームページ上に集約されることになりました。(詳しくは後日配付するお手紙をご覧ください。)これまで教育委員会の後援があるものは学校の善意で配付していましたが、年々増え続けているので、今年に入ってから学校でもチラシの配付基準を見直し、正門玄関の配架などに切り替えて全員への配付を減らしてきました。そして今回の措置により、さらに少なくなると思います。しかし、年度途中での実施のため、すべてのチラシがそうなるわけではありませんし、大事なものはこれからも配付を続けます。



今後は、学校からのお手紙などのペーパレス化についても検討していきたいと思いますが、大事なのは、紙かデータかよりも、内容が全員に正しく伝わるかどうかです。慎重に判断したいと思います。